



# 復興ニュース

144号  
2016年  
4月1日

## 東日本大震災から5年が経ちました

多くの人の人生を一変させた東日本大震災から5年が経過しました。

陸前高田市小友町の『小友地蔵尊』で3月11日、平泉・中尊寺の山田俊和貫主らによる法要が営まれました。地元の皆さん、大阪の一般社団法人元気人間製造研究所の皆さんらも集まり、東日本大震災で犠牲となられた方々のご冥福をお祈りました。

小友地蔵尊は、大阪の石彫家で元気人間製造研究所の事務局長である中西保裕さんが作ったもので、近くに住む志田さんご夫妻が管理しています。東日本大震災の月命日である毎月11日に、中尊寺の僧侶・破石澄元さんが小友地蔵尊を訪れ、法要を行っています。

山田貫主は「わたしどもが生まれながらに持っている生老病死、四苦八苦は誰もが避けがたく、自分の思い通りになるものではありません。色々な悲しみや苦しみが生きていとあるわけですが、みんなで協力して乗り越えていくことが大切だと思います」とおっしゃっていました。



## 仮設、旅立ち、新生活



ようやく太陽の日差しが暖かい季節となりました。春は出会い、別れの季節でもあります。

先日、大船渡市大船渡町の地の森仮設にお邪魔したところ、ある幼い兄弟に出会いました。

「こっちおいでよー」と言われ集会所に入ると3歳ぐらいの男の子が人懐っこく話しかけてくれました。下の子も一生懸命、何か言葉を話していました。とっても愛らしい兄弟でした。



震災後に誕生した幼い兄弟。聞けば、今日が仮設住宅での最後の日で、もうすぐ新居での暮らしが始まることでした。「よく集会所に遊びに来て、住民らに孫のようにかわいがられた」と支援員は話しています。まさに地の森仮設のアイドルですね！

仮設に暮らす女性は「わたしたちの希望だった。仮設を出してしまうのは残念だけど、元気いっぱい成長してほしい」と願いを込めて話していました。

# 大阪から元気を届けに 5 回訪問(平成 23 年～28 年) ありがとう！ 元気人間製造研究所のみなさん

盛町 蔵ハウスお地蔵様と一緒に記念写真



「自殺したい」と相談を受けた森重子さん(大阪府堺市)は、人間を元気にする活動の必要性を痛感し、仲間と共に「元気人間製造研究所」を結成し、定期的に研究会や著書発行など活動を行っていました。

こうした活動を行っているときに東日本大震災が起きました。被災地を支援しようと決意し、山形の知人を頼り訪問したのが大船渡市の夢ネット大船渡でした。

そして今後 5 年間被災地を訪問し「被災者との交流と復興を学びたい」と誓ってくれました。

以来森理事長は個人的にも何度も大船渡市を訪問しましたし、元気人間製造研究所としても平成 23 年 11 月を最初に 24 年・25 年・27 年、そして今回は津波記念日である 28 年 3 月 10 日～11 日に、約束の第 5 回目として気仙を訪問しました。その都度夢ネット大船渡が行っている「手芸講習」等に役立つ布やミシン等を届けていただきました。

最初に訪問しました 23 年 11 月には津波被害で結婚披露宴も出来なかった方があるだろうと、大船渡町の永沢仮設で「結婚披露宴(4 組)と仮設住民交流会」を開きました。翌日は大船渡市・陸前高田市の各仮設住宅を訪問して、七五三着付けと写真贈呈、手芸縫製指導、絵本製本、講話と元気体操、理美容などを行いました。この七五三着付けが NHK テレビで放送され、大阪へ出稼ぎのお父さんから娘の七五三晴れ姿を見た電話を受けた方(山馬越仮設)もあり、みんなに喜んで頂きました。

24 年の第 2 回目からは、「愛・逢いフェスタ」との名称にて、大船渡市では末崎地区公民館・大船渡地区公民館・サポートセンターとみおか、陸前高田市はつどいの丘商店街・再生の里ヤルキタウン等で開き、近くの仮設住宅や近隣の被災者にお出で頂き、楽しい交流が出来ました。

「被災者はどこかでお祈りする場所が必要だろう」(森理事長)と、同団体の事務局長中西保裕さん(石彫家)が製造した「お地蔵様」をその都度 2 体から 3 体持参し、陸前高田市は小友町の小友地蔵尊・再生の里ヤルキタウン、大船渡市は津波伝承館・末崎地区公民館・大船渡地区公民館・蔵ハウス・三鉄盛駅・末崎町の個人宅等へ置いています。

第 5 回目の今回は、津波記念日でもあり陸前高田市の小友地蔵尊へ、平泉中尊寺から和尚さんが来ての法要と一緒に参列しました。この小友地蔵尊は同団体が贈ったものであり、想いも深かったことと思います。午後は蔵ハウス地蔵と大船渡市の追悼式へお参りし、夕方仙台空港から大阪へ帰りました。

## 私の 5 年間を振り返って 大阪府大阪市西成区 横田未来(みく) 中学 3 年生

私が初めて(平成 23 年 11 月)東北に行った時は、現地を見て「ここで多くの方が亡くなったんや…」という、何とも言えない気持ちと、沢山の建物があつた所なのに、更地しか広がっていない現実を目の当たりにし、寂しさと悲しみがわき上がって来て、バスの中でしばらくの間、泣いてしまいました。

そして、現地の方々とお会いし、いつも大阪で話す様な他愛ない会話をしていたら、「今、私と話してはる人も、家とか流されたんやな…」と、被災したのに、私たちに気を遣って、温かい物をくれたり、悲しみを見せまいと元気に接している人を見てたら、人は強くて中身は弱いんやな～と思いました。

二度目(24 年)は、母が足を骨折し、悔しいけれど行けませんでした。三度目(25 年)、私はバルーンアートを担当して行きました。現地の方々もだんだん表情が明るくなって来ていて、とても嬉しかったです。

四度目(27 年)は綿菓子作る仕事をしていました。子どもばかりの施設(大洋学園)へ行って、綿菓子を作っていたら、多くの友達が出来ました。今では文通もしています。

この 5 年間、楽しいだけではありませんでしたが、とても良いものになりました。今回も本当は行きたかったのですが、中学校卒業間近なのでいけませんのでこの手紙を母に託しました。ごめんなさい。また、そちらに行きます。それまではさようなら。(平成 28 年 3 月記)



23 年 未来ちゃん

森理事長談話:「未来ちゃんのように被災地を訪問したどの子も大きく変わりました。将来の自分の進む方向を真剣に考えるようになっていきます。被災地へ子どもたちを連れて来て良かったと思っています」と被災地訪問の成果を話してくれました。

# 気仙丸の見学会が実施されました

大船渡市の魚市場で3月13日、千石船「気仙丸」の見学会が行われました。

気仙丸は平成4年に釜石市で開催された「三陸・海の博覧会」で展示するため、大船渡市の新沼留の進棟梁をはじめ12人の気仙大工によって製造された船です。東日本大震災時、赤崎町の蛸の浦漁港に係留されていましたが、奇跡的に転覆せず無事でした。

震災の津波を乗り越えた奇跡の船「気仙丸」ですが、製造から24年経ったこともあり腐食が進んでいます。大船渡市ヨット協会の会員らを中心に発足した気仙丸プロジェクト実行委員会（伊藤四土良委員長）では、気仙丸の保存・活用方法、気仙大工の技術伝承について模索しているところです。



## 幸福の黄色いハンカチの菅野さんに聞く！

あの大震災から5年が過ぎました。津波で自宅を流され、現在陸前高田市矢作町内の仮設住宅に住んでいる菅野啓佑さん（74）にお話を伺いました。

菅野さんは震災後、被災地に希望をあたえられるようにと願いを込めて自宅跡地に“黄色いハンカチ”を掲げました。

自身が好きな山田洋次監督の映画「幸福の黄色いハンカチ」に見立てたものです。現在はかさ上げ工事のため、撤去されています。

そして、元大工という経験を生かして、仮設住宅の押し入れに棚を作ったり、ウッドデッキを設置したりしました。住民からは「このウッドデッキでお酒を飲むぞ！」などと大変喜ばれたそうです。現在は国連友という団体の東日本大震災支援活動員として、イベントの日程調整や告知などの活動をしています。

今後については、かさ上げ工事の完了を待ち、自宅を再建される予定とのことです。予定では平成29年中には終わる予定ですが、計画よりも遅れるかもしれません。

菅野さんは「わたしにとって幸せの黄色いハンカチは《復興のしるし》。まだまだ仮設暮らしが続くが、新しく自宅が整備されたら、また黄色いハンカチを掲げたい」と話しています。

復興した陸前高田市にまた黄色いハンカチがたなびく日が楽しみです。＼(o^)/



## 三陸町越喜来 「ど根性ポプラ」公園へ 調査費計上

3月26日（土）に三鉄盛駅主催の「三鉄駅からウォーク」を実施しました。3月は三陸駅から越喜来地区の名勝や史跡、災害跡地等を巡りました。

当日は越喜来地区のまちづくりを行っている片山和一良さんが案内して下さいました。廻った場所は新山神社、小枝柿原木、未音崎湾望台、潮目、ど根性ポプラ、三陸大王杉、三陸サイコー商店会等を約5kmのウォークでした。

ど根性ポプラは約30cmの大きさで、その約20cmが津波で浸水しましたがその春から若葉が芽吹き、現在も元気に成長しています。地元の人達はこの一本のポプラの木を「ど根性ポプラ」と命名し、新年度は調査費も付いてポプラを含めて周辺が公園に生まれ変わる予定だそうです。最後にサイコー商店会でヘアサロンカサイさんからお茶の接待を受け、午後0時30分発の三鉄に乗って帰りました。

# 三鉄盛駅ふれあい待合室からのご案内 TEL0192-47-3542

## ◆オカリナ演奏会

4月9日(土) 12:50~14:00 三陸鉄道盛駅の待合室にて  
春のひと時をオカリナの美しい音色で楽しみませんか?

## ◆三鉄 駅からウォーク 《申し込み必要》

4月16日(土) 8:30に三鉄盛駅集合  
9:13盛駅発一唐丹駅一15:25盛駅着  
桜の名所、本郷桜並木や伊能忠敬の星座石を散策します。  
参加費900円(保険代、往復乗車券代)  
持ち物:飲み物 締め切り4月13日(水)

## ◆お花見! 駅弁列車 《申し込み必要》

4月17日(日) 11:00に三鉄盛駅集合  
11:25盛駅発一釜石駅一13:40盛駅着  
大人気の『いわて恵みづくし弁当』をいただきます。  
車窓から桜を眺めながら、列車旅を楽しみましょう♪  
参加費2500円(おいしいお弁当、乗車券代)です。  
定員48人。締め切り4月11日(月)



静岡の宮地文子さんより

## 居室訪問ボランティア養成講座が行われました



陸前高田市広田町を拠点に活動している傾聴ボランティア「こころのもり」と浄土真宗本願寺派の皆さんは3月15、16日の2日間、陸前高田市コミュニティホールで居室訪問ボランティア養成講座を開きました。今回で6回目となります。

講座ではテーマに沿った対話を行う、なぜ傾聴活動を行っているのかを話し合うなどのグループワークを通して傾聴活動に必要な『話を聴く・丁寧に気持ちを受け取る・感じた気持ちを表現する』ことを学びました。

参加者した女性は「人は誰一人同じ人はいない。年齢、性別、性格、国籍、生まれ育った環境、などなど。考え方が違って当然だけど、つつい他人もわたしと同じ考えだと決めつけてしまっていたところがあった。今後の傾聴活動に生かし、これからも継続していきたい」などと感想を話していました。

## ～俳句の投稿がありましたので、ご紹介します～

- ▼われ母の 越冬暮らしに指かぞえ 2本の杖借り 卒寿の春よ
- ▼漂々と 群れ飛ぶカモメに手を合わせ 語り継ぎ行く 大海の怖さよ

埼玉県草加市 菊池勉さまよりいただきました。

### ～ご意見、ご感想をお寄せください～

送付元: NPO 法人夢ネット大船渡  
\* 〒022-0003  
大船渡市盛町字内の目14-15  
\* TEL/fax 0192-47-3271  
\* メール npoyumenet@bz01.plala.or.jp

この復興ニュース発行には  
岩手県福祉基金からの助成と  
元気人間製造研究所(大阪府)、  
酒田あねさんの会(山形県)  
のご寄付を受けています。